

# 新生産管理システム(AMS)の 全社運用開始

## 1 まえがき

従来の生産管理システムは昭和45年から各部門の業務に合わせ自社で開発し、順次改良を重ねたものである。運用形態はE D P (Electronic Data Processing)部門で集中処理をするもので、そのため紙ベースの配送・仕分けとタイムラグが避けられず、事務作業の省力化を中心とした販売、生産、購買、技術、原価等の部門毎のシステムであった。

しかし、近年、企業を取りまく環境の変化は目を見張るものがあり、当社も既設システムを2000年対応システムに変更する点と業務変革の観点から全社的なシステムの見直しをすることにした。

平成9年4月から各部門代表者によるプロジェクトチームAMS (Aichi Management System)を編成し、専任メンバーとしてシステムを構築するとともに、迅速な意思決定体制で推進した。

新システム構築は業務変革と効率化を実現させるためにB P R (Business Process Reengineering)を先行させ、コンセプト・成果を実現する手段としてE R P (Enterprise Resource Planning)パッケージBaaN(オランダ・バーン社製ソフト)を採用した。

また、受注から原価計算まで一貫した業務プロセスを用い、平成11年12月から新生産管理システムの全社運用を開始している。

## 2 目的と手段

E R Pパッケージソフトをベースに次に示すような目的と手段で、基幹業務システムの再構築を行った。

### (1) B P R (業務革新)の実現

- ①生産管理情報の一元化と共有による業務の統合化
- ②標準ビジネスプロセスの適用と部門間横断的な視点による特異性や無駄な作業の排除、および業務の標準化(リードタイム短縮、間接要員の省力化)

### (2) 変化に対応した情報システムの確立

- ①情報のリアルタイム化による鮮度の高い情報の提供とその活用の実現
  - ②生販統合によるビジネス・スピードアップ
  - ③棚卸資産の削減による財務体質強化
- (3) 将来の発展性・拡張性の担保
- ①経理システムとの統合
  - ②技術情報との連携
  - ③外部連携強化

以上のことを実現するためE R Pパッケージソフトとして、オランダ・バーン社の“BaaN”(S Iベンダー:沖電気工業株)を採用した。

## 3 運用開始までの工程

平成11年12月の全社運用に入るまでの各工程を表1に示す。

表1 AMS全社運用までの工程

西暦年 項目	1998											1999											2000					
	基礎教育			カスタマイズ設計								システムテスト			ユーザ教育			初期運用					全社本格運用					
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
BaaN概要教育	—																											
プロトタイプ作成	—																											
課題抽出	—																											
課題解決の検討	—																											
基準値整備	—																											
カスタマイズ要件定義	—																											
カスタマイズ	—																											
ハード機器設置	—																											
ハード動作環境整備	—																											
システムテスト	—																											
キーユーザ教育	—																											
総合テスト	—																											
対外注業者運用説明	—																											
データ移行	—																											
システム部分運用	—																											
全社本格運用	—																									→		

## 4 システム構成

AMSシステムのネットワークおよびハードウェアの構成を図1に示す。

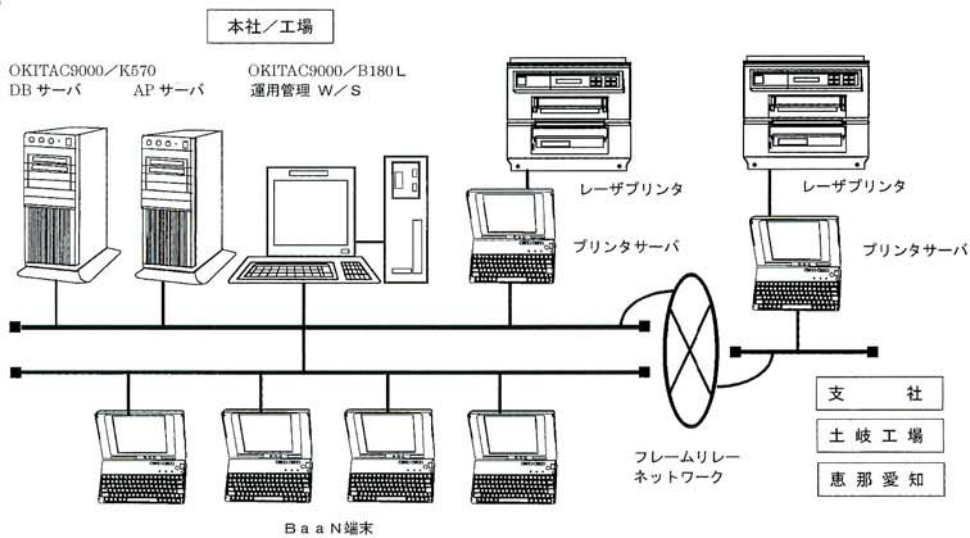


図1 ネットワークおよびハードウェア構成図

## 5 システム関連図

このシステムによる業務プロセスの関連図を図2に示す。

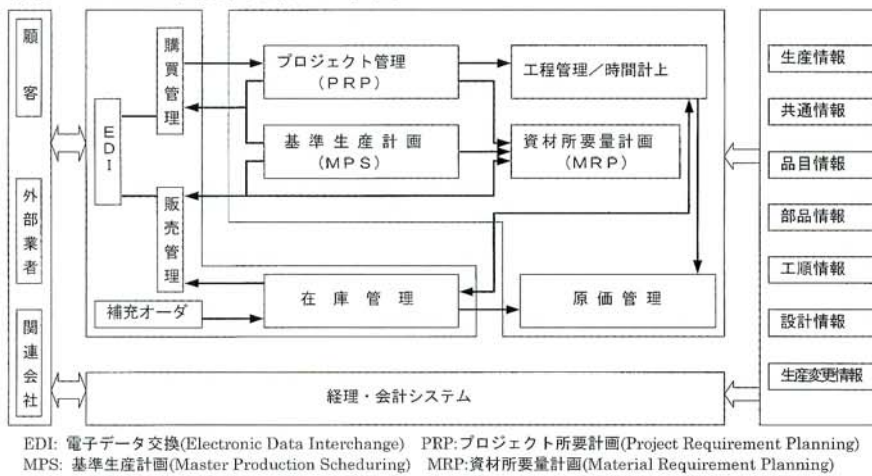


図2 業務用プロセス関連図

## 6 特長

このAMSシステムの運用によって業務が大きく変わった点を次に列挙する。

- ①製番単位方式からMRP(資材所要量計画)方式へ
- ②集中ホスト方式から分散クライアント・サーバ方式へ
- ③バッチ処理からリアルタイム処理へ
- ④ドキュメント配送業務のオンライン化
- ⑤情報の共有化
- ⑥外注加工材料の有償支給を無償支給へ

## 7 むすび

今回、ERPパッケージ導入にあたっては基本的にBaan導入のメリットを最大限に享受するためプログラムを変更するカスタマイズは行わずパッケージに業務を合わせた。

また、一方トップの理解と全社員の協力・実行力によって多少の困難さを伴ったが、短期間で全社運用が出来た。

今後は、現在のシステムを継続的に評価しつつ更なる改善を図るようにしたい。